

悔い改めることの幸い

(マタイ11・20〜24)

一、主イエスの叱責

主イエスの宣教には迫力がありました。20節をご覧ください。◀それからイエスは、ご自分が力あるわざを数多く行った町々を責め始められた。彼らが悔い改めなかったからである。▶とあります。力あるわざ、すなわち奇跡や病人のいやしは、神が主イエスにおいてあらわされたしるしであり、応答を求められるものでした。しかし彼らは悔い改めませんでした。それを責めておられます。21節です。▶「ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはどうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。▶と。コラジンとベツサイダは、どちらもガリラヤの町です。福音書に、主イエスがコラジンで福音宣教を行ったという記述はないのですが、21節より、主イエスが神の国の福音を語り、数々の力あるわざ（奇跡、しるし）を行われたことを知ります。一方ベツサイダは、アンデレ、ペテロ、ピリポの出身地です。マルコの福音書8章に、主イエスが盲人の目を開かれたことが書かれています。コラジンにしてもベツサイダにしても、悔い改めて（▶

方向転換をして）、神の国の福音を信じる者が、ほとんど起こされなかったものでありましょう。それを責めておられます。

主イエスの宣教は、「よろしかったら神の国の福音を信じてください」と語るものではありませんでした。信じるならいのちに入り、無視または拒絶するなら、さばきの日にさばかれるという気迫がありました。私たちに当てはめるなら、キリストを伝えるときは、ことはは滑らかであっても、「信じるなら救われ、永遠のいのちに入る。拒絶、または無視をするなら、さばかれる。すなわち、キリストの贖いの死は適用されない」と思うくらいの迫力を持って臨むことが必要です。もちろん神の愛を持っていなければ、意味はありませんが。

二、カペナウムへの叱責

続いて、23節を見てまいります。カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。おまえのうちで行われた力あるわざがソドムで行われていたら、ソドムは今日まで残っていたことだろう。▶と、主は語られました。カペナウムにはペテロの姑の家があり、主イエスが姑の熱病を癒やされたことから――病そのものは風邪の類いであったかもしれませんが――、彼女は主イエス

の強力な支援者となりました。こうして主イエスと一行は、カペナウムにあってペテロの姑の家を活動拠点としました。主イエスがカペナウムにおられる時は、姑の家に大勢の人が集まりました。町の人でイエスを知らない人はいませんでした。なのになぜ、カペナウムを叱責されたのでしょうか。主は「カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ」と語られました。このおことばから、カペナウムが高慢になっていったと窺い知ることができます。「私たちの所にはメシアかも知れないイエスがおられる。イエスを目指して多くの人々がやって来ている」という自負心であり、満足感です。こうして知らずの間に高慢になったカペナウムに対して、主は叱責されたのでした。私たちに当てはめるなら、「主は、この教会を祝福されている」と思うのは結構ですが、

「この教会が日本のリバイバルを牽引して行く」と自負心を持ったとするなら――そんなふうと思うようになりたいたいです――、そのような時にこそ、聖霊に探っていたとき、▶詩篇139・24私のうち傷のついた道があるかないかを見て私をどこしえの道に導いてください」と祈ることがたいせつです。

三、近くにおられるうちに

最後にお語りすることは、主が近く

におられるうちに悔い改めること、すなわち方向転換をすることです。

「神の時」というものがあります。私たちの人生には、悔い改めて、すなわち方向転換をして主を知る「時」があります。神は常にすべての造られた者の近くにおられますが、その人に対する「時」があります。神の時がいつやって来るのかは、分かりません。ある人にとっては挫折を味わうことが、神と出会う時になるでしょうし、別の人にとっては、出会う時になりません。ある人にとっては、神癒が神と出会う時となることでありましょうが、別の人は神癒にあらずかって「イエスさまありがとう。さようなら」となるであります。形は様々ですが、神と出会うという意味で、神が近くにおられる時があります。それを逃さないことがたいせつです。イザヤ書55章の聖句を見てまいります。▶イザヤ55・6主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださいから。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。――主のことば――▶と。

主が近くにおられるうちに、応答されてください。